

毎週のようにやってくる台風はゴメンですが、スポーツの秋、芸術の秋、読書の秋、そして食欲の秋…いろいろな秋を満喫したいですね。

現在会員登録数 1,272 人さま。ご愛読ありがとうございます。次号は 11 月 20 日発行の予定です！

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 38

《3》 サイト紹介 -子どもの本をリサーチする-

《4》 行って来ました!

【3】全国イベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 講演会・シンポジウムの開催（日本児童文学学会第 52 回研究大会）

「巖谷小波研究の現在 -没後 80 年、児童文学研究の可能性を考える-」

日 時：平成 25 年 11 月 10 日（日）午後 1 時～4 時 10 分

〈第一部〉 13:00～14:30 講演会 「巖谷小波 人とメルヘン」

講 師：巖谷國士氏（明治学院大学名誉教授）

〈第二部〉 14:40～16:10 シンポジウム

金 成妍氏（玖珠町久留島武彦研究所所長）

中川理恵子氏（白百合女子大学他非常勤講師）

勝尾 金弥氏（愛知県立大学名誉教授）*ビデオ出演

藤本 芳則氏（大谷大学短期大学部教授）

助言者：巖谷國士氏（明治学院大学名誉教授）

コーディネーター：土居安子（大阪国際児童文学振興財団 主任専門員）

会 場：広島経済大学 6 号館 3 階 631 教室（広島市安佐南区祇園）

参加費：1,000 円

主 催：日本児童文学学会・一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

後 援：広島市立中央図書館・広島市こども図書館

● 当財団編『子どもの本 100 問 100 答』が創元社から刊行されました

子どもの本に関わる質問や疑問を 100 問にまとめて答えた「子どもの本ハンドブック」。子どもに本を読んでほしいと願っている人や図書館、家庭文庫や読書推進に関わる諸団体のための手軽で便利な相談ツールとして編集しました。書店等でお求めください。

書 名：子どもの本 100 問 100 答 司書、読書ボランティアにも役立つ

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団/編

発行：創元社 2013年8月 A5判 224ページ 1,890円（税込）

●「第30回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（木）です。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#30boshu

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『時代の証人 新美南吉』 かつおきんや/著 風媒社 2013年10月

対象年齢：大人

内容紹介：新美南吉の「うた時計」「牛をつないだ樫の木」「和太郎さんと牛」「おじいさんのランプ」「最後の胡弓弾き」の5編について、時代背景、当時の村の状況、題材に使われている事象や物の当時のイメージ、南吉の日記などを丹念に追うことによって、作品の伝えようとするところを読み解いた研究評論。

O：これまで児童文学作品のみをとりあげてきましたが、作家と作品を扱った研究書を作品以上に面白く読むという稀有な経験をしましたので、今回はこれでやりましょう。

Y：5編の南吉作品がとりあげられていますが、例えば最初の「うた時計」では、時計が日本に輸入され、時間の概念そのものが変化したという時代背景、懐中時計が日露戦争の2年前に本格的に日本で作られ、軍隊で重宝されたこと、昭和になると「少年倶楽部」の懸賞に使われていること、一方、オルゴール時計（うた時計）は、石川啄木の短歌や竹久夢二の詩にも登場することなど、題材である時計について当時の人たちが抱いたであろうイメージが丁寧にたどられています。

次いで、南吉のメモや代用教員の時の経験を検討しながら執筆過程を推察。そして、うた時計は激しい戦争をくぐり抜けて帰国した持ち主が買い求めた品であったことが明らかにされます。最後にどんなメロディーをかなでていたかが楽譜付で示され、読者は「うた時計」をより深く理解できるようになっています。

O：作品を文字レベルだけで読むのではなく、モノを時代のキーワードとして、読み解いていくという手法で、作品が立体的に浮き彫りにされていくのは、ミステリーを読むのと同じような興奮がありました。著者と一緒に調査をし、発見する過程を体験しているようで、著者の語りが絶妙でした。

Y：歴史小説を書いて来られ、児童文学史、特に著者の出身である地域の児

童文学史、児童文化史を徹底的に調べる手法で研究されてきた勝尾金弥さんならではの「古いもの」を知ることによって今を学ぶことの大切さを改めて教えられたように思いながら読みました。

O：南吉が見て、聞いた時代を知ること、なぜ、南吉童話が現代でも心を打つのか解ってきました。時代や地域を丸ごと含んだ南吉作品そのものが、「時代の証言」だったのです。今年、86歳になられた勝尾さんが開かれた地平の新鮮なこと、びっくりです。

Y：今年、南吉生誕100年にあたり、大阪府立中央図書館でも「ごんぎつねとともに」という資料展示を開催し、茂田井武の南吉作品の原画なども展示されています。本書を読んだ後で展示を見るといっそう楽しんでもらえると思います。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 38

その6 絵本の読み方 (13) 『どろんこハリー』を読む：原文と比べる

作品をより深く理解するために原文と比べてみることも役に立ちます。渡辺茂男さんの訳はすばらしく、英語のニュアンスをこうも正確に伝えられるのかと思うところが多くありますが、異なる言葉なのでもちろん違いもあります。そこで今回は、日本語とのニュアンスの違いの中から、いくつか挙げてみることにします。

まず、タイトルが『HARRY the Dirty Dog』です。ハリーという名前が先に来ているため、日本語より、名前が目立ち、ハリーに読者が親しみをもって作品世界に入るように作られています。

ハリーの人物像に関しては、1ページ目「なんでも すきけど、」という言葉がありますが、英語では「who liked everything.」が行として独立しており、何にでも興味を示す好奇心旺盛のハリーの性格が強調されています。

ハリーがどろんこになって汚れた様子は、日本語でも「もっともっと」「まっくろけ」などで表現されていますが、「dirtier」「dirtiest of all」となっており、汚れ方が比較級から最上級になっていくことがはっきりわかります。

そしてハリーが家族の前で何度も芸当をして見せた時、「なんだか ハリーみたいだけど、これは ハリーじゃないよ」というせりふは「Oh, no, it couldn't be Harry」です。日本語以上に否定の言葉が強く感じられます。

加えて日本語では「うち」「家」と訳されているHOMEが全体のキーワードになっている点が原文の特徴として挙げられます。

「それから、そとへ ぬけだしました。」は、「Then he ran away from home.」となっており、家から逃げ出して「どろんこあそび」という褒められるべき遊びではない行為をハリーが意識的に行っていることが英語の方がはっきり表れています。

家に帰ろうかと思う時、「Harry began to wonder if his family thought that he had really run away」となっており、家を抜け出すときに使った

「run away」という単語が繰り返されることによって、本当の「家出」ではないというハリーの強い気持ちが伝わります。

最後に「じぶんのうちって なんて いいんでしょう。」は「It was wonderful to be home.」です。再び「home」という言葉が使われることで、家族のいる家から出て行って家族の元に帰ってくるという構成がはっきりわかるようになっていきます。このように作品理解が深まると、読み方もそれにそって変化します。

*次号は「その7プログラムの立て方」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。(Y)

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

一次資料データベース篇 18 回目。ご紹介するのは以下のサイトです。

● 一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 子どもの本 いま・むかし
http://www.justice.co.jp/museum/ref_index.php

子ども向けデジタル・ミュージアム「子どもの本 いま・むかし」は、当財団が旧大阪府立国際児童文学館（吹田市）の運営を受託していた頃、稀少かつ貴重な資料を子どもたちにも見てほしいとの思いで制作したものです。特に、現在の児童文学や絵本で描かれているジャンルやテーマが、既に明治期にその萌芽がみられ、現在まで物語の系譜として地続きであることを提示したいとの思いがありました。

「作品」「ジャンル」「時代」「作者」で検索可能で、「ジャンル」なら、さらに「冒険・探検」「学校・友だち」「推理・探偵」「ふしぎな世界」「家族」の5つ。それぞれのテーマについて、明治、大正、昭和前期・後期、平成と時代別に主な作品を見ることができます。

例えば、ファンタジー作品を紹介する「ふしぎな世界」。明治期では「愛ちゃんの夢物語」や「安得仙家庭物語」などを紹介しています。前者はルイスキャロル「不思議の国のアリス」、後者はアンデルセンに漢字をあてたものです。大正期以降は、小川未明、浜田広介、宮沢賢治の作品のほか、バリー「ピーター・パン物語」、ケネス・グレーアム「たのしい川辺」、ミルン「熊のプーさん」などを取り上げています。

それぞれの作品には、表紙や挿絵、文章の一部を紹介し、かつ作品に関わるちょっとしたトリビア（雑学）も豆知識として掲載。さらに、作品の一部は音声でも聞くことができます。紹介している本は全部で約 280 点。各作者（約 100 名）に関する情報ページも必見です。(J)
※次号は、一次資料データベース篇〈その 19〉の予定です。

《4》 行って来ました！

大阪市西成区にある「塩崎おとぎ紙芝居博物館」に行ってきました。

街頭紙芝居が子どもたちに絶大な人気があった戦後、塩崎源一郎さんが三邑会（さんゆうかい）という組織を作り、画家に紙芝居を作らせ、それを紙芝居師に有料で貸していました。1995年、日本でただ一人の絵元として、所蔵する2万巻もの紙芝居を保存、紹介するために、ご自宅を利用してこの博物館を創設されました。

昭和の雰囲気が残る路地にある、古い2階建ての一軒家です。玄関から部屋の中、階段の脇まで、壁面の棚にびっしりと街頭紙芝居が積まれています。

案内していただいた紙芝居師の近藤博昭さんにうかがうと、紙芝居は今も三邑会所属の紙芝居師さんたちが街頭に出るために借りていかれます。「博物館」という名前ですが、すべて手描きで、世界に1枚しかない貴重品が、現役で使用されているのが魅力です。

昭和22年から28年間も続いた「チョンちゃん」シリーズは全部で5,200巻もあるそうです。2階にあった「少年タイガー」や「月光仮面」の肉筆の看板は迫力満点ですし、70年の大阪万博出展時の看板などもあり、わくわくしてきます。

部屋の一角には、紙芝居にするお話の直筆原稿や、描かれた絵の艶出しや補強するためのラッカーを塗る刷毛、紙の反りを直すためのプレス機などが置かれた、作業場が残されています。古いものを大切に残しながら、新しい世代を育て後世に伝えていくことは、大変なことだと思いました。（K）
※博物館見学は、事前連絡が必要です。

【3】全国のイベント紹介

- 資料展示「ごんぎつねとともに－新美南吉生誕100年記念－」
会 場：大阪府立中央図書館 1階展示コーナーほか（東大阪市荒本）
期 間：開催中～12月23日（月） 休館日あり
主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館
後 援：新美南吉生誕100年記念事業実行委員会
内 容：2013年は、児童文学者の新美南吉が生まれて100年にあたります。
国際児童文学館で所蔵しているさまざまな「ごんぎつね」を中心に、
新美南吉の投稿作品や編集した文集など、貴重な資料を展示します。
◇子ども向けクイズラリー「きみもちょうせん！南吉クイズ」
全問正解すると「ごん吉くん」ブックマーク（しおり）がもらえます！

- 児童文学作家 富安陽子さん講演会「本は不思議の扉」
日 時：平成25年11月24日（日）午後1時～午後2時30分
終演後サイン会あり
場 所：たかつガーデン（大阪府教育会館）8階（大阪市天王寺区東高津）
参加費：無料
定 員：100名 申込先着順
主 催：大阪府教職員互助組合

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報について

では、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

連載《2》読書活動ボランティアのためのワンポイントで取り上げています
絵本『どろんこハリー』（福音館書店）を1名の方にプレゼントします。

ご希望の方は、メールで 件名「メルマガ NO.38 プレゼント希望」とし、(1)
お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ
(5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りく
ださい。

締切は10月10日(木)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

地下鉄の駅で、スマホをいじりながら歩いている人の多さに驚いた。この秋、
発売された新機種をドコモも扱うようになったことで、新入者が増えたのか
もしれない。対面から来る人はもちろん、同じ方向の人も、流れとはスピー
ドが違うわ、急に立ち止まるわで、危うくぶつかりそうになる。今どきは二
宮金次郎だって勧められないのに（意味がわからない人、あなたは若い）。
ああ、ガラケー愛用者のヒガミか……。 (A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまで
お願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
